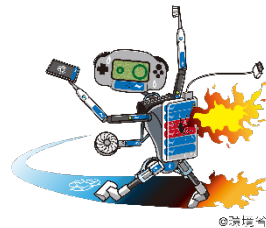


膨張・変形したリチウムイオン電池等への対応に関する 事例集

環境省 環境再生・資源循環局
廃棄物適正処理推進課



1. 本資料の目的・位置づけ・掲載情報等
 2. 膨張・変形したリチウムイオン電池等への対応事例
- 【参考資料】市町村における膨張・変形したリチウムイオン電池等の処理状況調査(令和7年度実績)

1. 本資料の目的・位置づけ・掲載情報等

■ 背景

- ・ 環境省では、令和7年4月に発出した「市町村におけるリチウム蓄電池等の適正処理に関する方針と対策について（通知）」において、膨張・変形したリチウムイオン電池及びリチウムイオン電池使用製品（以下「膨張・変形したLiB等」という）を含めた回収体制の構築を求めている。※リチウムイオン電池及び使用製品の総称を「LiB等」という。
- ・ 膨張・変形したLiB等は、安全性の観点から、回収から処分までの取扱いが課題となっており、市町村ごとに異なる方法で対応している。

■ 目的

膨張・変形したLiB等への対応に課題を抱える市町村が、各地域の実情を踏まえて回収、運搬、保管及び処分の方法を検討する際の参考となるよう、市町村の取組事例を整理した。

■ 本資料で参考とできる事項

- ・ どのような課題を背景として取組が導入されたか/どのような方法で回収・運搬・保管・処分が行われているか
- ・ 当該手法が選択された理由/導入時に行った相談・調整事項/運用後に認識された課題や見直し事項

■ 利用にあたっての留意事項

「市町村におけるリチウム蓄電池等の適正処理に関する方針と対策について（通知）」を踏まえた対応に係る調査において、膨張・変形したLiB等への対応事例として、他市町村への共有が可能と回答した市町村の取組を整理したものである。各事例は参考情報として掲載しているものであり、環境省として特定の手法を推奨するものではない。各市町村の状況に応じて参考として活用いただきたい。

個別事例に掲載している情報

各事例では、膨張・変形したLiB等への対応について、取組の背景から回収・運搬・保管・処分の方法、導入時の検討事項、運用上の課題までを整理しています。

金属製の蓋付きパール缶を回収ボックスとして使用する事例（福岡県北九州市）



取組を採用した背景・課題・困っていたこと

① 5年から小型電子機器を拠点回収。製品パックの回収拡大時に、プラごみへのモバイルバッテリー等の混入やバック車や処理施設等での火災を防ぐため、令和5年7月に充電式電池等回収ボックスを追加した。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

② 大にあたり、膨張・変形品を含むLiB等回収パール缶の内袋の樹脂素材を比較検討した。その結果、金属接触や液漏れ時の通電を避ける目的で、新規容器にアラミド繊維製内袋を採用した。

この取組により実際に得られた変化

③ 4月に拠点を約90か所から約140か所に増設し、ボックス周辺の掲示・Web周知は適切排出の抑制に有効。

④ 回収から処分までのフロー



約140拠点到電池単体用のパール缶および小型電子機器用のボックスを併設。原則、膨張品も通常品と同じ回収ルートとし、絶縁を周知している。



委託業者が軽バンで巡回し、パール缶は上部をバンドで固定、小型電子機器は30Lポリ袋で収集して処理施設へ直送。著しい膨張品は、臨時回収する場合がある。



市の一時保管施設は経由しない。



処分 小型家電リサイクル法認定事業者へ直接搬入。認定事業者で処理が難しい一部の二次電池類は、別の再資源化事業者で処理する。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

⑤ 協力のもと、金属製パール缶を用いた発火試験を実施。容器・内袋の材の固定状況といった諸条件下での発火挙動を確認。

運用後に見直した点・課題

⑥ 年度の拠点拡大に合わせ、新規容器にアラミド繊維製内袋（約8,000円）を導入したが、既存容器も併用している。運搬時の明確な安全基準、頻回収集の費用、大型・製造元不明品の受入・異物混入による選別負担も課題である。

参考情報

- ⑦ 回収頻度：原則月1回、多量拠点は月2回／必要時は臨時回収
- ・ 新規内袋：約8,000円／袋
 - ・ 発火試験：消耗品等で数万円程度
 - ・ 施設向けに、回収対象と、膨張品・ボックスあふれ時の環境業務課への連絡方法を毎年度周知

回収容器の写真



8

① 背景・課題

取組を採用するに至った背景や課題。

② 取組選定の理由

当該手法を選択した理由や経緯。

③ 取組効果・変化

取組による変化や効果など。

④ 取組全体のフロー

回収・運搬・保管・処分の全体フローと、各工程での運用方法を掲載。

⑤ 導入時の調整事項

取組実施前の際の相談・確認内容。

⑥ 実施上の留意点

導入後の見直し、現在の課題及び未確定事項。

⑦ 参考情報

取組の実施に係る参考情報。

⑧ 設備・使用状況※

設備・器具等の形状等の写真。

2. 膨張・変形したリチウムイオンLiB等への対応事例

膨張・変形したLiB等への対応事例一覧

掲載頁	事例タイトル	主な取組の特徴 (使用容器や防火対策等)	主な取組を実施する対象工程
p.7	金属製の蓋付きパール缶を回収ボックスとして使用する事例（福岡県北九州市）	蓋付きパール缶/内袋	回収
p.8	金属製パール缶・防火シートで運搬・保管する事例（熊本県菊池市）	別袋排出／防火シート	回収・運搬・保管
p.9	運搬・保管用金属製パール缶に消火剤を設置する事例（東京都練馬区）	消火剤／パール缶	運搬・保管
p.10	回収したLiB等を消火剤付き金属製パール缶に毎日移す事例（東京都品川区）	消火剤／パール缶	運搬・保管
p.11	絶縁・個別包装し、砂入りパール缶で保管する事例（青森県五戸町）	絶縁／個別包装／砂	保管
p.12	真水に浸して保管する事例（東京都渋谷区）	真水への浸漬／ 状態に応じた区分保管	保管
p.13	既存回収ルートの対象外品の引渡し先を確保した事例（東京都小平市）	受入対象外品／ 引渡し先確保	処分

金属製の蓋付きパール缶を回収ボックスとして使用する事例（福岡県北九州市）

取組を採用した背景・課題・困っていたこと

平成25年から小型電子機器を拠点回収。製品プラスチックの回収拡大時に、プラごみへのモバイルバッテリー等の混入やパッカー車や処理施設等での火災を防ぐため、令和5年7月に充電式電池等回収ボックスを追加した。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

拠点拡大にあたり、膨張・変形品を含むLiB等回収用のパール缶の内袋の樹脂素材を比較検討した。その結果、金属接触や液漏れ時の通電を避ける目的で、新規容器にアラミド繊維製内袋を採用した。

この取組により実際に得られた変化

令和8年4月に拠点を約90か所から約140か所へ拡大。ボックス周辺の掲示・Web周知は適切排出の抑制に有効。

回収から処分までのフロー

回収



約140拠点に電池単体用のパール缶および小型電子機器用のボックスを併設。原則、膨張品も通常品と同じ回収ルートとし、絶縁を周知している。

運搬



委託業者が軽バンで巡回し、パール缶は上部をバンドで固定、小型電子機器は30Lポリ袋で収集して処理施設へ直送。著しい膨張品は、臨時回収する場合がある。

保管



市の一時保管施設は経由しない。

処分



小型家電リサイクル法認定事業者へ直接搬入。認定事業者で処理が難しい一部の二次電池類は、別の再資源化事業者で処理する。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

市消防協力のもと、金属製パール缶を用いた発火試験を実施。容器・内袋の材質や蓋の固定状況といった諸条件下での発火挙動を確認。

運用後に見直した点・課題

令和8年度の拠点拡大に合わせ、新規容器にアラミド繊維製内袋（約8,000円／袋）を導入したが、既存容器も併用している。運搬時の明確な安全基準、頻回収集の費用、大型・製造元不明品の受入・異物混入による選別負担も課題である。

参考情報

- 回収頻度：原則月1回、多量拠点は月2回／必要時は臨時回収
- 新規内袋：約8,000円／袋
- 発火試験：消耗品等で数万円程度
- 施設向けに、回収対象と、膨張品・ボックスあふれ時の環境業務課への連絡方法を毎年度周知

回収容器の写真



金属製ペール缶・防火シートで運搬・保管する事例（熊本県菊池市）

取組を採用した背景・課題・困っていたこと

LiB等は、膨張・変形の有無や製品の種類によりJBRCや家電量販店等の回収対象外となり、住民が処分に困る場合があった。構成2市2町から広域連合に対応を求め、令和7年4月にステーションでの分別回収を開始した。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

住民が排出しやすい体制とするため、他市町村の事例を参考に、ステーション回収と市役所窓口での回収を併用した。また、適正な分別排出の促進と火災リスクの低減を期待し、ステーション回収での別袋回収と窓口回収での金属ペール缶・防火シートによる運搬・保管を採用した。

この取組により実際に得られた変化

窓口・ステーション回収の実施により、膨張・変形したLiB等を通常ごみと分けて排出・収集できる体制となり、市は住民が手元に保管する不安の軽減につながっていると認識している。

回収から処分までのフロー

回収



ステーション回収では、LiB等を特定品目として回収しており、膨張・変形したLiB等を、他の特定品目とは別の袋に入れて排出するよう周知している。また、市役所本庁及び各支所の窓口でもLiB等を受け入れている。

運搬



窓口回収分は、金属製ペール缶及び防火シートを用いて運搬している。ステーション回収分は、別の袋に入れた状態で、膨張・変形の有無に応じて平ボディトラックに積載して運搬している。

保管



窓口回収分は、金属製ペール缶と防火シートを用いて屋内で一時保管している。保管期間が長ならないよう、広域連合の再資源化施設へ定期的に搬出している。

処分



広域連合の再資源化施設を経由し、従来から乾電池の処理を委託している事業者へ併せて引き渡している。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

市の施設管理部署と、窓口回収分の一時保管方法について協議し、金属製ペール缶・防火シートを使用することとした。菊池広域連合は処理事業者に、膨張・変形したLiB等の受入可否、絶縁処理及びLiB等の大きさ等の受入条件を確認した。

運用後に見直した点・課題

令和7年8月に本庁、同年11月に各支所で窓口回収を開始した。令和8年度からは、市外からの持込みを抑止するため、窓口持込み時に氏名・住所を記録し、持込件数も把握している。現時点で大きな課題はないが、人件費及び処理単価の上昇による負担増が見込まれる。

参考情報

- ・ 窓口持込みによる膨張・変形品を含むLiB等回収量：月平均約50個
- ・ 必要資材：金属製ペール缶、防火シート
- ・ 窓口回収分の搬出体制：既存の不法投棄監視・巡回業務の中で対応
- ・ 処分時受入条件：電動アシスト自転車用バッテリーを除く電池類で、概ね20cm四方以内のもの・コイン電池及びモバイルバッテリー等の充電電池は絶縁処理を行う

運搬・保管用金属製パール缶に消火剤を設置する事例（東京都練馬区）

取組を採用した背景・課題・困っていたこと

令和4年度から取組を開始した。全国的にLiB等を原因とする火災が多発しており、練馬区においてもモバイルバッテリー等が原因となった火災が発生していたことから、回収・運搬・保管時の安全確保が課題となっていた。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

令和4年度の不燃ごみ資源化事業の開始に合わせ、ごみを圧縮しない収集車両を導入するとともに、モバイルバッテリー等を他の不燃ごみと区分して取り扱うこととした。さらに、発火した場合の対応として、運搬・保管用のパール缶に消火剤を設置している。

この取組により実際に得られた変化

取組開始年度と令和7年度を比較すると、LiB等の回収量は約2倍となった。ただし、回収量は膨張・変形したLiB等のみを集計した数値ではなく、取組と火災発生件数との関係については確認できない。

回収から処分までのフロー

回収



区内7か所の回収拠点への持込み、又は2週間に1回の不燃ごみ収集日に収集職員への手渡しにより回収している。住民には端子を絶縁して排出するよう案内している。

運搬



回収場所から一時保管施設までは区の車両で運搬し、処理事業者への引渡し時は委託先の車両で運搬している。いずれも消火剤を設置したパール缶に入れて運搬している。

保管



回収した膨張・変形したLiB等は、蓋の内側に消火剤を設置したパール缶に入れ、区の一時保管施設の屋内で保管している。

処分



膨張・変形したLiB等を受入可能な事業者へ引き渡している。事業者は他自治体での受入実績があり、区の一時保管施設での引渡しが可能である。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

消防から、発火したLiB等については砂を入れたパール缶で保管するよう助言を受けたため、発火したLiB等は、発火していないLiB等とは区分した上で、砂を入れたパール缶に保管している。あわせて、発火時の消防への連絡、避難及び通報等の手順を定めている。

運用後に見直した点・課題

回収量の増加を受け、令和7年度途中から事業者への引渡しを月1回から月2回に変更した。膨張・変形したLiB等のみの回収量は個別集計しておらず、回収量はLiB等全体で把握している。

参考情報

- 品目別の分別なしで引渡し可能
- 引渡し場所：区の一時保管施設
- 必要資材：パール缶、消火剤
- 発火時の連絡・避難・通報手順は要確認

運搬・保管容器の写真



消火剤

回収したLiB等を消火剤付き金属製パール缶に毎日移す事例（東京都品川区）

取組を採用した背景・課題・困っていたこと

火災事例は把握していなかったが、全国的な二次電池火災の報道と回収量増加の見込みを踏まえ、運搬・保管対策を検討した。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

延焼拡大の抑制のため、以前はすべてを絶縁して運搬していたが、手間がかかるという課題があった。費用はかかるが、効率的な方法として、金属製パール缶内に消火チューブを設置することにした。紙状消火剤も検討したが、費用と耐用年数を考慮して採用しなかった。

この取組により実際に得られた変化

作業内容や火災件数の明確な変化は把握していないが、運搬・保管時の不安が軽減した。

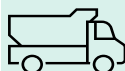
回収から処分までのフロー

回収



膨張・変形したLiB等を含む二次電池を不燃ごみ（各戸収集）・拠点回収場所から月2回の頻度で回収するほか、窓口に直接持ち込まれた場合も受け入れている。回収した膨張・変形したLiB等を含む二次電池は、プラスチック製折り畳みコンテナに入れる。

運搬



処理事業者への引渡し時は、膨張・変形したLiB等を含む二次電池を消火剤付き金属製パール缶に入れた状態で、区の車両により運搬している。

保管



回収した膨張・変形したLiB等を含む二次電池は、保管場所で日ごとに種類別に仕分け、消火剤付き金属製パール缶へ移し替えて保管している。

処分



膨張・変形したLiB等を含む二次電池を受入可能な事業者へ引渡し。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

処理事業者に、膨張・液漏れ・海外製・JBRC対象外品の受入可否を確認した。種類別分別と、引渡し時の絶縁が不要であることも確認した。

運用後に見直した点・課題

当初は膨張・変形したLiB等を含む二次電池をプラスチック製コンテナに入れ、週1回パール缶へ移していたが、リスク低減のため毎日移す運用に変更した。現在コンテナで保管しているスマートフォン等の電池内蔵製品も、消火剤付きパール缶での保管を検討している。

参考情報

- 必要資材：金属製パール缶、消火チューブ
- 処分事業者の受入条件は要確認

保管・運搬容器の写真



絶縁・個別包装し、砂入りパール缶で保管する事例（青森県五戸町）

取組を採用した背景・課題・困っていたこと

モバイルバッテリーの処分方法が不明確で、問合せ時に職員が判断に迷っていた。県内の施設・家庭での火災が発生している状況も踏まえ、令和7年度に取組を開始した。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

既存予算で採用可能な保管方法として、絶縁テープ、ビニール袋、パール缶、砂を採用。水への浸漬や抵抗器による放電は、残存電力の確認ができないことや水の適切な処理、劣化電池への負荷を考慮し見送った。

この取組により実際に得られた変化

正常品は回収ボックス、破損・膨張したLiB等は窓口へ排出するよう周知後、処理重量は約2倍に増加し、問合せはほぼない。

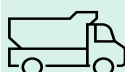
回収から処分までのフロー

回収



通常品は小型家電回収ボックス、膨張・変形したLiB等は担当課窓口で回収。窓口持込みは月5～7個程度。

運搬



窓口から庁舎敷地内の車庫へ手持ちで運び、一定量又は一定期間ごとに再資源化事業者へ自己搬入している。

保管



端子を絶縁し、1個ずつビニール袋に入れ、砂を入れたパール缶で車庫内に保管。蓋はロックせず、小穴を設けている。

処分



以前から取引のある再資源化事業者へ、小型家電と合わせて引渡し。搬入直前に、砂とビニール袋を取り除いている。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

環境省のオンライン説明会等を参照し、リチウムイオン電池の仕組みや米国PHMSAの基準などを調査した。上長との調整時には、一定間隔で再資源化業者へ搬出することを求められた。再資源化事業者とは、受入基準を確認した。

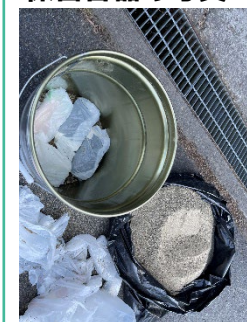
運用後に見直した点・課題

膨張・変形したLiB等が小型家電回収ボックスへ投入される例が残るため、投入口付近に窓口持参を求めるポスターを掲示した。レンタル品が持ち込まれるケースも対応が困難。住民向け案内は簡明さを保ちつつ、職員向けには受入可否や保管・搬出方法をより具体的に定める必要があると認識している。

参考情報

- ・ 資材は既存予算で調達、砂は他課から借用
- ・ 窓口持込み：月5～7個程度
- ・ 自己搬入時の処理費用：22円/kg

保管容器の写真



真水に浸して保管する事例（東京都渋谷区）

取組を採用した背景・課題・困っていたこと

車両火災の報道増加や実際の火災事故、区民から膨張・変形したLiB等の処分方法に関する要望を受け、令和7年4月に回収を開始した。区民からの処理依頼が増え、当初の処理事業者では対応が難しくなったため、新たな処理先を探すこととなった。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

膨張・変形したLiB等の排出先を確保し、他のごみへの混入を避けるため、区施設での拠点回収を採用した。集積所回収も検討したが、絶縁等の安全確保と費用面から見送った。真水への浸漬は、現在利用する引渡しスキームで示された保管条件に基づき実施している。

この取組により実際に得られた変化

自治体HP等を見た住民からの問合せが増え、事業者からの相談も増加した。事業者には、家庭から排出されるもののみが回収対象であることを都度説明している。

回収から処分までのフロー

回収



膨張品・通常品の区別はなく、区施設7か所で、各施設の開庁時間中に回収している。窓口担当者が絶縁状態を確認して、未処理の場合は職員が絶縁する。

運搬



回収拠点から一時保管施設までは、膨張・変形したLiB等を真水を入れたペール缶等に入れ、区の車両で運搬している。処理事業者へも区の車両で月1回搬出している。

保管



膨張・変形したLiB等は真水を入れたペール缶等に浸すなど、二次電池の状態に応じて区分した上で、一時保管施設の屋内で保管している。

処分



受入可能な処理事業者へ、月1回の頻度で引き渡している。引渡し可能な品目は、事前に処理事業者へ確認している。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

処理事業者に、引渡し可能な品目と保管方法を相談した。また、東京都環境局から現在利用する引渡しスキームの説明を受け、膨張・変形したLiB等は真水に浸し、二次電池の状態に応じて区分して保管する運用を確認した。

運用後に見直した点・課題

当初は3人で、各施設から回収した電池を順次仕分けていたが、作業効率を踏まえ、令和8年6月頃から仕分け人員を増やし、作業時間を短縮した。一方、区外居住者が膨張・変形したLiB等を持ち込む例があり、回収対象者や対象品目の案内が課題となっている。

参考情報

- ・ 処理事業者に、受入可能品目と保管方法を確認
- ・ 回収拠点となる区施設に、保管方法等をまとめた手順書を配布
- ・ 回収拠点：区施設7か所
- ・ 必要資材：絶縁テープ、消火シート（ペール缶の蓋内部に設置）、ペール缶等

既存回収ルートの対象外品の引渡し先を確保した事例（東京都小平市）

取組を採用した背景・課題・困っていたこと

既存回収ルートでは、膨張・変形したLiB等やスリーアローマークのない電池が対象外であり、これらを引き渡せる処理先の確保が必要だった。JBRC対象外品の適正処理を目的として、東京都におけるモデル化事業に参加したことが契機となった。

この方法を選んだ理由・他に検討した方法

膨張・変形したLiB等を含み、スリーアローマークの有無を問わず、幅広い小型充電式電池を受入可能な事業者であるため採用した。

この取組により実際に得られた変化

既存ルートの対象外品を月1回引き渡せるようになり、保管期間は最長1か月程度となった。

回収から処分までのフロー

回収



家庭からの戸別・拠点回収は行わず、資源循環課窓口及び環境イベントで受入れている。

運搬



窓口と保管場所は同一施設内。処理事業者への引渡し時は、パール缶に入れ、引渡し先車両で月1回運搬する。

保管



端子を絶縁し、通常品と分けてパール缶で屋内保管。直射日光や高温を避け、引渡しまで最長1か月程度保管する。

処分



小型充電式電池を、マークの有無を問わず買取・再資源化可能な事業者へ引渡し。

取組の導入・運用に関する情報

相談相手・確認内容

東京都の環境局と引渡し先事業者に、受入可能な電池の種類・状態と保管時の注意点を相談した。

運用後に見直した点・課題

窓口回収後から月1回の引渡しまで最長1か月程度保管するため、保管中の火災対策を継続検討。追加対策としてパール缶内部に設置する消火用フィルムの購入を検討中だが、現時点では導入していない。

参考情報

- ・ 判断・保管基準、再資源化事業者の受入条件を確認
- ・ 写真付き選別マニュアルを作成し、選別・保管場所へ掲示
- ・ 緊急時は施設管理受託者の火災対応手順に従う
- ・ 本取組開始に伴う追加負担は現時点でなし

**【参考資料】市町村における膨張・変形したリチウムイオン
電池等の処理状況調査(令和7年度実績)**

本資料においては、市町村におけるリチウムイオン電池等の処理状況調査（令和7年度実績）のうち、膨張・変形したLiB等の処理実態に関する調査結果を抜粋して掲載する。

■ 調査目的

リチウムイオン電池等に起因する火災事故等の防止を図るために発出した、「市町村におけるリチウム蓄電池等の適正処理に関する方針と対策について（通知）」（令和7年4月15日付け環循適発第2504151号）を踏まえ、市町村のリチウムイオン電池等の処理体制の構築状況等について、令和7年度の実績を把握するためフォローアップ調査を実施した。

■ 調査項目

- ・膨張・変形したLiB等の回収状況
- ・膨張・変形したLiB等の運搬時の取扱い状況
- ・膨張・変形したLiB等の保管状況
- ・膨張・変形したLiB等の処分状況 等

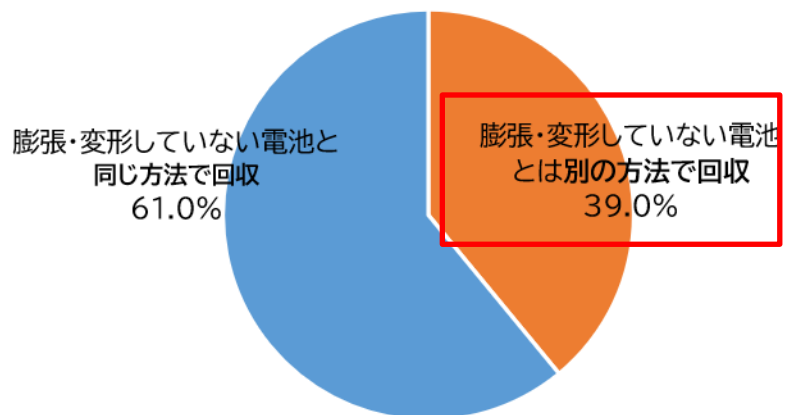
■ 調査実施期間・調査対象

- ・調査実施期間：令和8年4月28日～5月28日
- ・調査対象：市町村（事務組合、特別区を含む。）
 - ・対象市町村数：1,741
 - ・回答市町村数：1,741（回収率：100%）

膨張・変形したリチウムイオン電池単体の回収状況

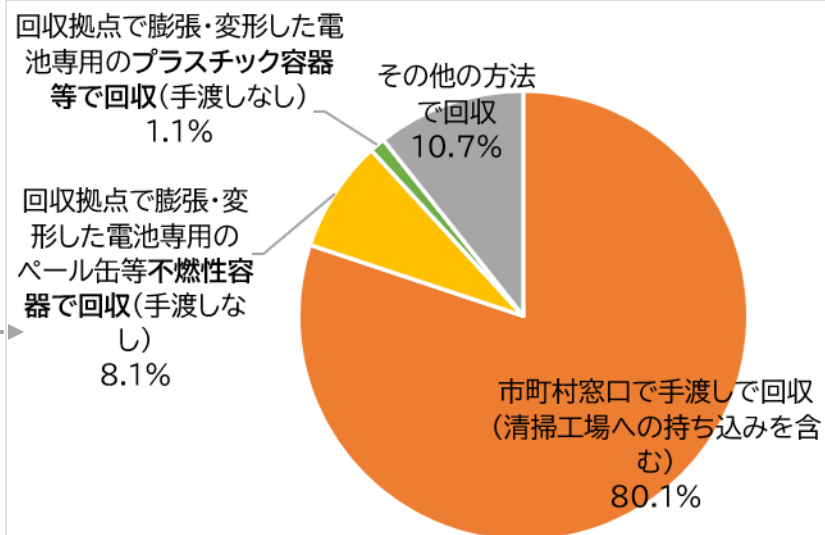
- 膨張・変形したリチウムイオン電池単体を、別の方法で回収している市町村は、39.0%であった。
- 別の方法で回収している市町村では、「市町村窓口での手渡し回収」が最も多く、80.1%であった。

膨張・変形したリチウムイオン電池単体の回収方法



膨張・変形したリチウムイオン電池単体の回収を行う市町村(回収方法を明示していないが、住民が持参した際には回収している市町村を含む。):n=1,366

「別の方法」における具体的な回収方法

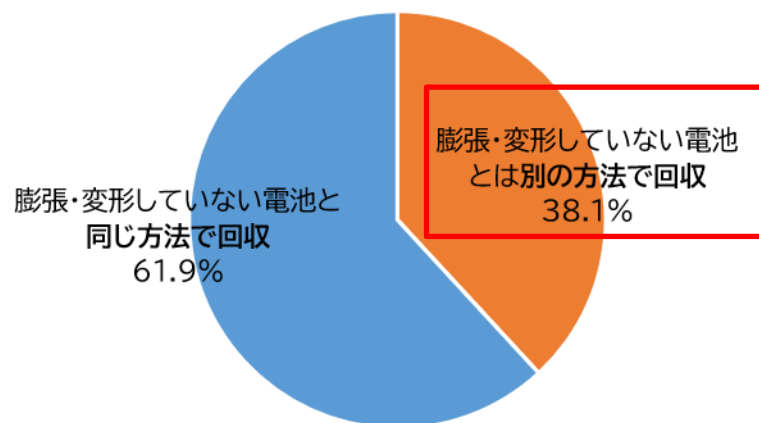


膨張・変形したリチウムイオン電池単体の回収を、膨張・変形していないものとは別の方法で行う市町村:n=533

膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品の回収状況

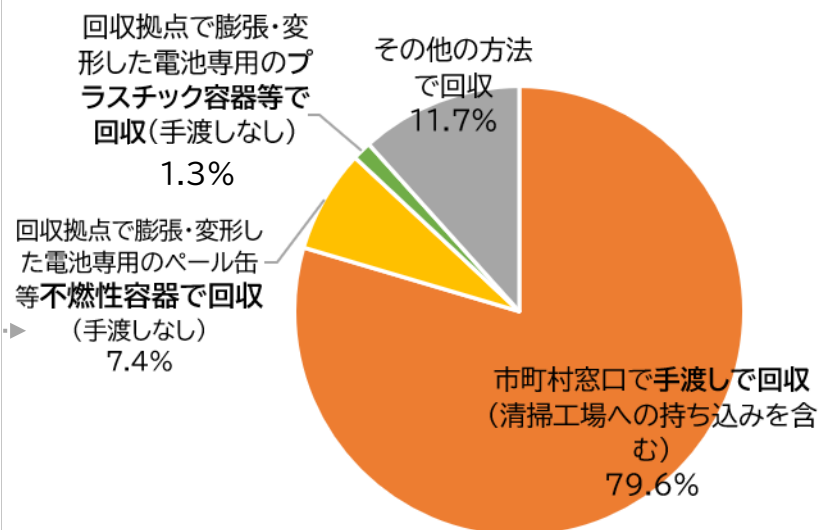
- 膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品を、別の方法で回収している市町村は、38.1%であった。
- 別の方法で回収している市町村では、「市町村窓口での手渡し回収」が最も多く、79.6%であった。

膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品の回収方法



膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品の回収を行う市町村(回収方法を明示していないが、住民が持参した際には回収している市町村を含む。):
n=1,348

「別の方法」における具体的な回収方法



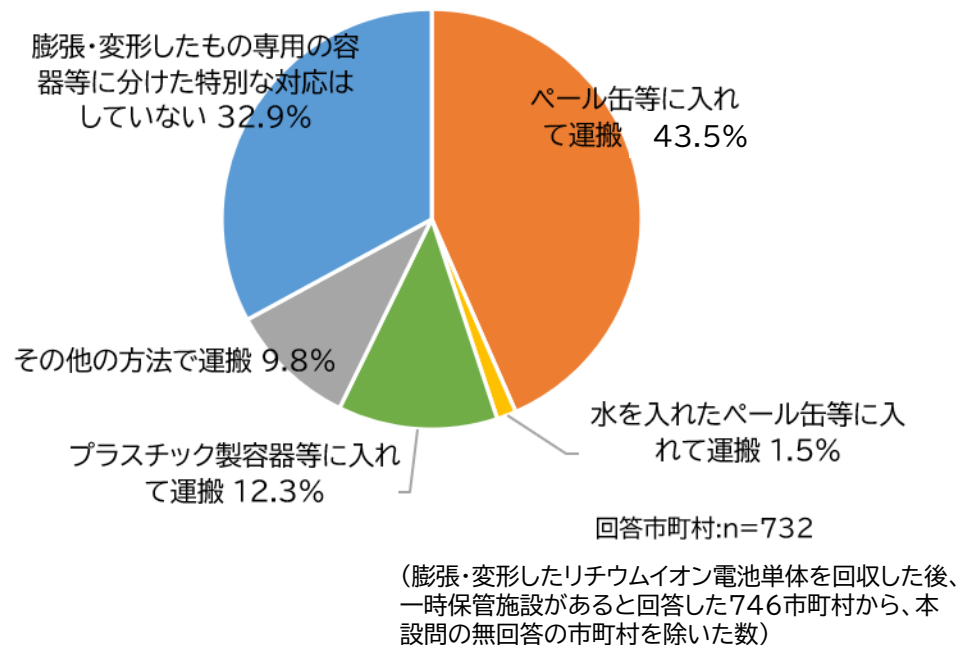
膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品の回収を、膨張・変形していないものとは別の方法で行う市町村:n=514

膨張・変形したリチウムイオン電池等の運搬時の容器状況(1/2)

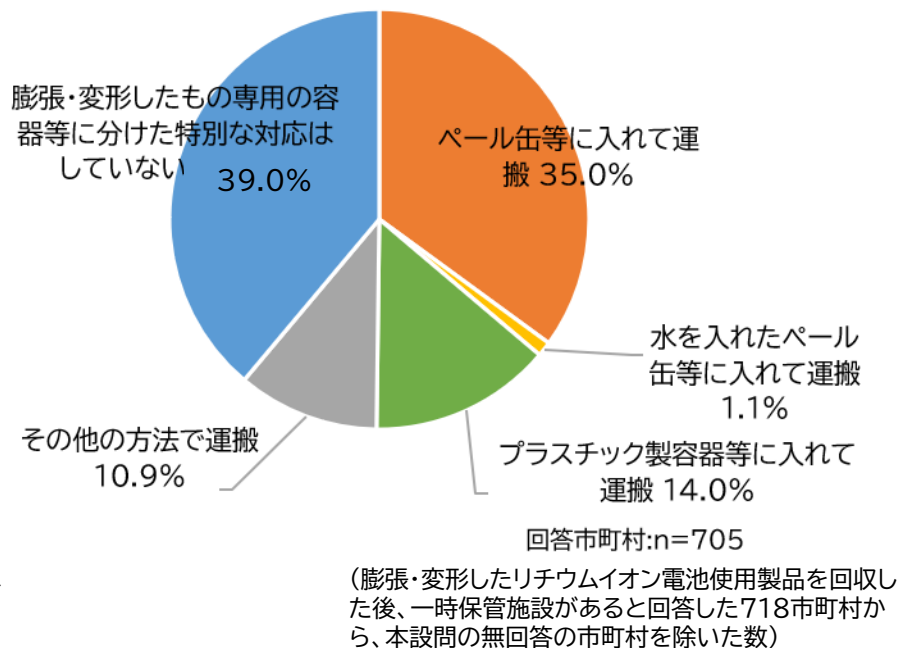
- 膨張・変形したリチウムイオン電池等の一時保管施設への運搬容器は、電池単体では「ペール缶等」（43.5%）、使用製品では「特別な対応なし」（39.0%）が最も多かった。

一時保管施設への運搬に使用する容器

○リチウムイオン電池単体



○リチウムイオン電池使用製品

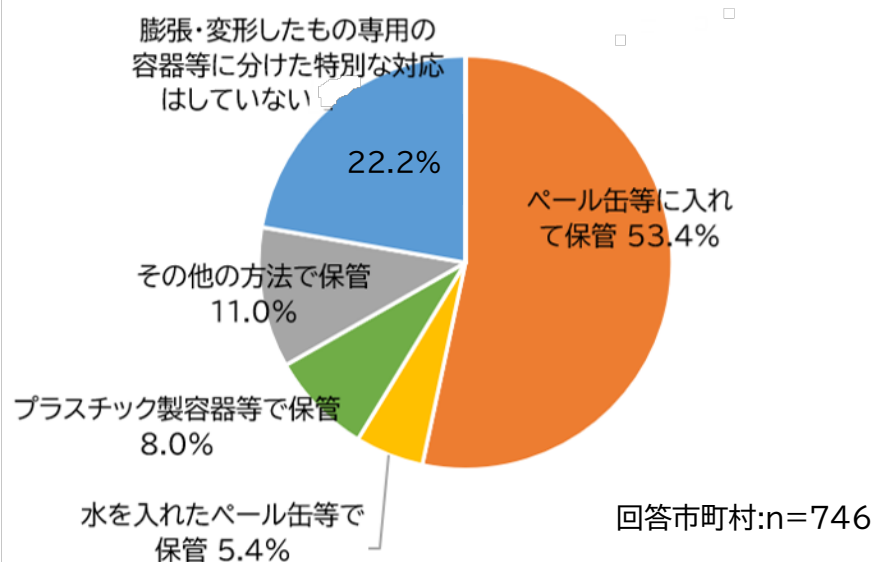


膨張・変形したリチウムイオン電池等の一時保管状況(1/2)

- 膨張・変形したリチウムイオン電池等の一時保管施設で使用する容器は、電池単体及び使用製品いずれも「パール缶等」が最も多かった。

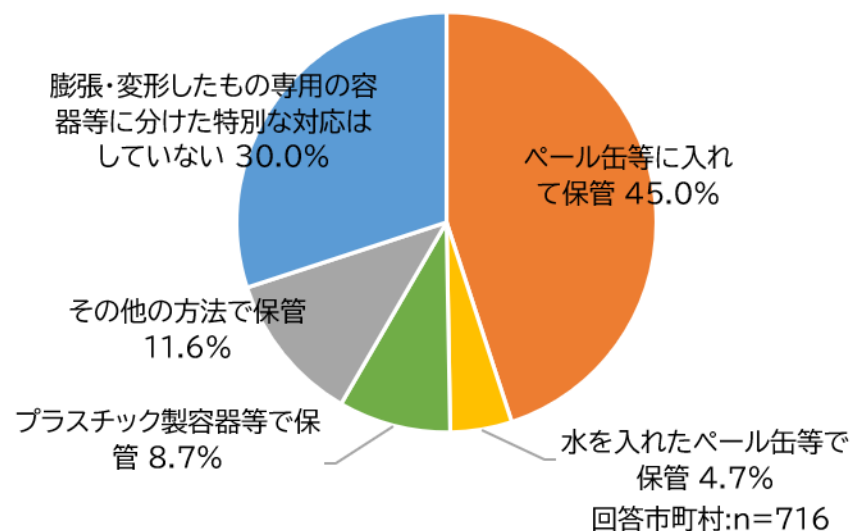
一時保管施設における保管容器

○リチウムイオン電池単体



(膨張・変形したリチウムイオン電池単体を回収した後、一時保管施設があると回答した市町村数)

○リチウムイオン電池使用製品



(膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品を回収した後、一時保管施設があると回答した718市町村から、本設問に無回答の市町村を除いた数)

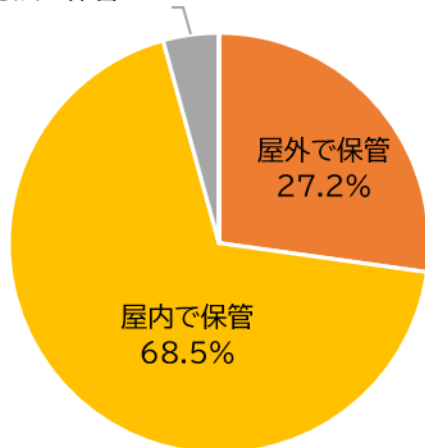
膨張・変形したリチウムイオン電池等の一時保管状況(2/2)

- 膨張・変形したリチウムイオン電池等の一時保管施設における保管場所は、電池単体及び使用製品いずれも「屋内」が最も多かった。

一時保管施設における保管場所

○リチウムイオン電池単体

その他の方法で保管 4.3%

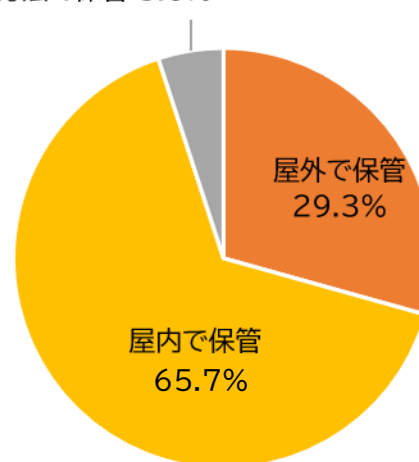


回答市町村:n=746

(膨張・変形したリチウムイオン電池単体を回収した後、一時保管施設があると回答した市町村数)

○リチウムイオン電池使用製品

その他の方法で保管 5.0%



回答市町村:n=716

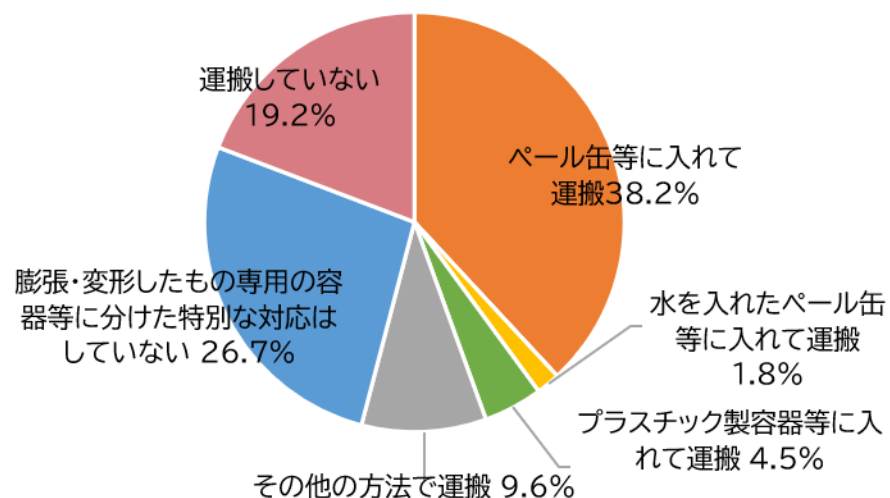
(膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品を回収した後、一時保管施設があると回答した718市町村から、本設問に無回答の市町村を除いた数)

膨張・変形したリチウムイオン電池等の運搬時の容器状況(2/2)

- 膨張・変形したリチウムイオン電池等を処理事業者への運搬に使用する容器は、電池単体では「パール缶等」（38.2%）、使用製品では「特別な対応なし」（32.5%）が最も多かった。

処理事業者への運搬に使用する容器

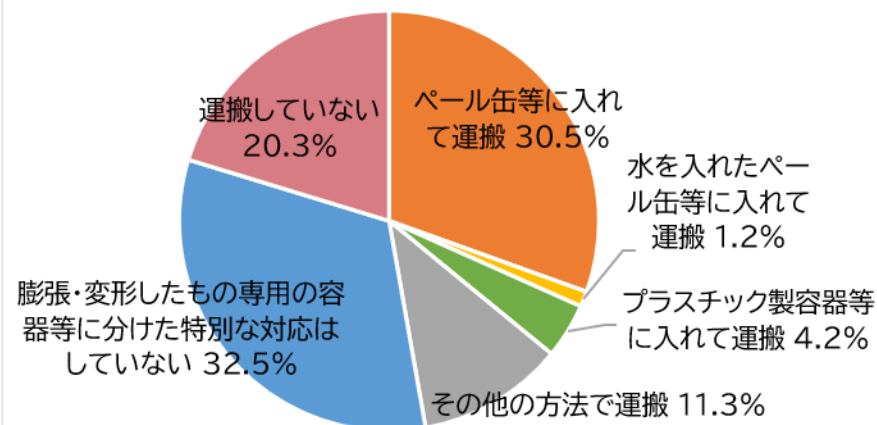
○リチウムイオン電池単体



回答市町村:n=1,365

(膨張・変形したリチウムイオン電池単体の回収を行う
1,366市町村から、本設問に無回答の市町村を除いた数)

○リチウムイオン電池使用製品



回答市町村:n=1,345

(膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品の回収を行う1,348市町村から、本設問に無回答の市町村を除いた数)

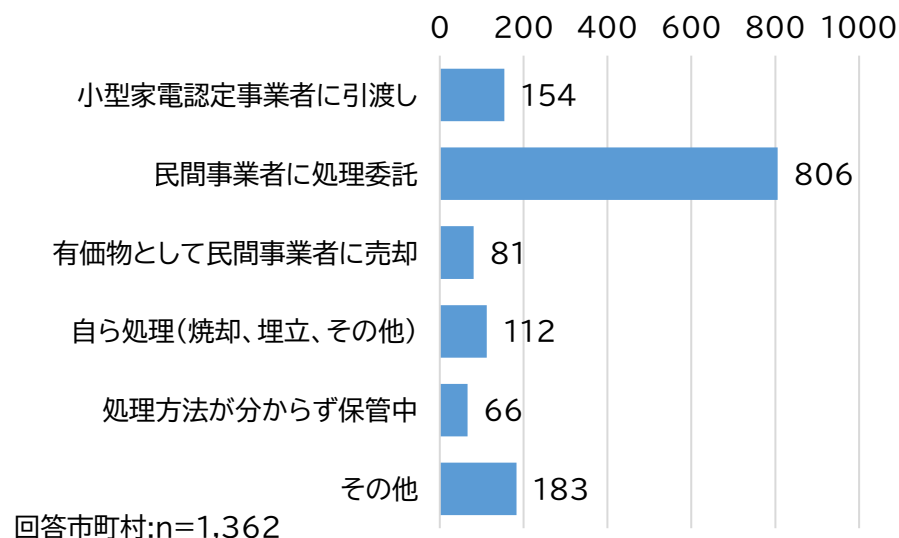
膨張・変形したリチウムイオン電池等の処理状況

- 膨張・変形したリチウムイオン電池等の処理状況は、電池単体及び使用製品いずれも「民間事業者に処理委託」が最も多かった。

膨張・変形したリチウムイオン電池等の処理状況

○リチウムイオン電池単体（複数選択）

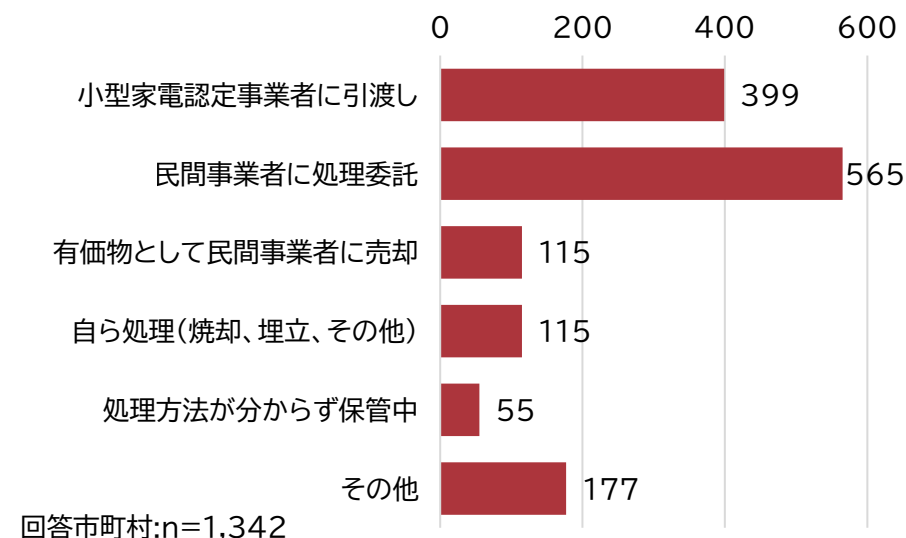
（件数）



（膨張・変形したリチウムイオン電池単体の回収を行う1,366市町村から、本設問に無回答の市町村を除いた数）

○リチウムイオン電池使用製品（複数選択）

（件数）



（膨張・変形したリチウムイオン電池使用製品の回収を行う1,348市町村から、本設問に無回答の市町村を除いた数）

